

(公社) 日本地すべり学会関東支部 令和元年度基礎技術現地見学会 「一火山地形・地質入門ー貞観噴火による富士山北麓の溶岩地形」開催報告

1. 実施概要

関東支部では、地すべりを初めとした土砂災害に関心のある学生や、地形・地質に関する基礎知識を深めたい技術者の方々を対象として、現地見学会を開催しました。今回は、災害との関連性が高い火山地形・地質をテーマとして富士山北麓の現地見学を行いましたので、報告します。なお、本現地見学会は、若手対策費（会員数対策WG計上分）支出事業として実施したものです。

- (1) 開催日：令和元年10月17日（木）
- (2) 開催場所：山梨県南都留郡富士川口湖町・鳴沢村
- (3) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部
- (4) 参加人数：19名

2. 現地見学会の内容

本現地見学会では、富士山研究の第一人者である日本火山学会副会長の千葉達朗氏に現地案内・解説をお願いしました。

午前には富士スバルラインを利用して富士山4合目まで移動し、雨天の中、御庭の登山道を上りつつ、火口列とスラッシュ雪崩跡及びその対策施設を見学しました。火口列は、直線状に連なる凹地で認識できます。火口周辺には、やわらかい溶岩の“しぶき”であるスパターが堆積しています。スパターの形状から降下時の上下判定方法について、わかりやすく解説頂きました。

スラッシュ雪崩跡は、雪崩の気分で斜面を一気に下りながら、幹折れや倒木の痕跡、河道と自然堤防のような地形を確認し、対策工の導流堤や洞門も見学しました。

昼食後は、精進湖まで移動し、半島内の遊歩道を歩きながら、貞観噴火により“せの湖”に流れ込んだ溶岩流の枕状部や湖底に堆積した珪藻土が溶岩膨張で隆起した地形や堆積物を観察しました。

続いて、天然記念物に指定されているジラゴンノの溶岩樹形を観察しました。最新の知見では、この露頭は溶岩流が樹林地帯に流れ込み、溶岩樹形を形成した後、溶岩膨張によって、上下方向に引き伸ばされたものと考えられています。世界的にも珍しい露頭を前にして、参加者からは時間を忘れて積極的な質問がなされました。

台風19号の影響でJR中央線や中央道が不通となり、現地見学会の開催が危ぶまれましたが、19名の方に参加頂きました。参加者の半数が非会員で、また、20歳代・30歳代の参加者が3分の1ということで、若手対策費支出事業の主旨に沿った開催となり、学会の活動を啓蒙する上でも非常に有意義な機会となりました。

3. おわりに

関東支部では、今後も現場に密着した現地検討会や学

生・若手技術者の育成活動を実施していく予定です。

最後に、本現地見学会の開催にあたり、資料をご提供頂いた山梨県道路公社をはじめとして山梨県富士東部環境事務所、山梨県文化財課、環境省富士五湖自然保護官事務所、鳴沢村教育委員会並びに鳴沢・富士河口湖恩師県有財産保護組合の関係各位には大変お世話になりました。ここに記して厚く御礼申し上げます。



写真-1 雲の中でのスラッシュ雪崩跡の見学



写真-2 溶岩樹形と溶岩膨張構造の露頭



写真-3 集合写真（鳴沢溶岩樹形の前で）

(関東支部幹事会 滝口 潤・林 一成)